

平成 30 年 7 月 3 1 日

平成 30 年度アーバンデザインスクール前期第 2 回実績報告書

1. 前期第 2 回概要

(1) 開催日時

平成 30 年 7 月 21 日 (土) 10 時 30 分から正午

参加人数 : 23 名

(2) テーマ

草津市の歴史的建造物 (ストラクチャー)

(3) 話題提供者

青柳憲昌 (立命館大学理工学部准教授)

(4) 話題の概要

- 第 2 回は「草津市の歴史的建造物 (ストラクチャー)」をテーマに立命館大学理工学部准教授の青柳氏に話題提供いただいた。
- 草津市には建造物の文化財が多く、指定文化財は 14、登録文化財は 5 の合計 19 の建造物の文化財がある。指定文化財は国指定が 8、県指定が 2、市指定が 4 であり、国、県、市の順番で価値が高いと考えて差支えない。
 - 草津市では、特に常盤地区に多く、(14 件中) 7 件ある。なお、登録文化財の 5 件はすべて本陣が残る宿場町にある。
 - (指定文化財が多い)常盤地区の歴史的価値は古代条里制の地割が一部であるが、残っていること、鎌倉、室町時代の中世の神社建築があること、そして、神社だけではなく、「宮座」(神社の祭事に関する村落内の特権的集団)の慣習としてサンヤレ踊りが受け継がれていることである。
- 草津市では、この常盤地区の神社をネットワークした交流の場づくりを検討している(「草津市都市計画マスタープラン」平成 18 年作成、22 年一部変更)
 - 立命館大学建築史研究室でも試案ではあるが、「歴史的神社建築を結ぶルートマップ」を作成している。
 - このルートは志那街道であり、旧守山宿から旧志那港まで結んでいる。このように人の往来の激しい街道の脇に神社などの歴史的建築ができる。
 - このルートは徒歩では少し苦しいが、自転車を使えば快適である。公共交通はバスがあるが、観光用ではない。
- 常盤地区は古代条里地割がよく残存している。地割は並行式坪並、長地型である。

- 坪地名がはっきりとわかる記録も残っている。
- 戦後の圃場整備で多くが失われた。
- 芦浦村については江戸時代、屋敷地周辺は集落拡大によって条里地割が崩れたと考えられる。
- 芦浦村の中核に芦浦観音寺がある。芦浦観音寺には阿弥陀堂（室町前期）と書院（江戸前期）の二つの重要文化財がある。
 - 阿弥陀堂は禅宗様の和様化の一例である。
 - 禅宗様（鎌倉時代の禅宗とともに宋から伝えられた寺院建築様式のひとつ）は鎌倉時代から室町時代にかけて、扇垂木が放射状から平行になる、縁（えん）が付くなどの中国式から日本式に変化している。
- 草津市の歴史的民家である吉田家は志那町にある庄屋の住宅である。瓦葺き、軒裏を漆喰で白く塗り固めた防火デザインである。
 - 琵琶湖博物館に移築されている富江家と比較すると大きさがわかる。
 - 庄屋であったため、庶民の家屋では4部屋の間取りのところ、6部屋あるほか、正式な上り口と日常の上り口がある屋敷である。
 - 江戸時代には建築規制があったことと関連すると思われるが、主屋の梁を延長し、前後に増設している。吉田家の場合は特に背面側は2段階に延長している。
 - その他草津市内には茅葺屋根の家がわずかに残っている。
- 草津市の神社建築は「前室付三間社 流造（ぜんしつつきさんげんしゃ ながれづくり）」が多い。
 - この様式は全国的にみると滋賀県に多い（全国173件中滋賀県内62件）。
 - 拝殿の前に柱を立てて庇（ひさし）を「前室」を設けている。「流造」とはその庇の形が流れているように見えることから名づけられた。
 - その滋賀県内でも湖北は前室閉鎖型、湖南は前室開放型が多いが、草津市は中間的な分布である。
- 江戸時代（1603年から）になると木が細く、装飾が増えてくるが、慶長4年（1599年建立）の印岐志呂神社本殿は木が太く、装飾も少ない伝統的な建築である。
 - 印岐志呂は「いぎしろ」と書くが、地元の人には「いきしろ」と呼んでいる。
 - 滋賀県とは異なり、大阪府の中世神社は装飾的・技巧的である。
 - 三大神社本殿は近世神社の典型であり、古式を保持している。ただし疎垂木（まばらだるき）などの特異性も多い。
 - 印岐志呂神社の縁下の腰掛け、三大神社の床下空間などがある。両神社と関係が深い日吉大社では床下祭礼を行っており、同じような祭礼が行われていた可能性もあるが、縁下の腰掛けや床下空間が何のために作られたのかわかっていない。

- 印岐志呂神社は市の指定文化財、三大神社は未指定であるが、両神社とも非常に価値が高いと考える。
- 立木神社は大正時代に建てられているが、様式としては古い。
 - 滋賀県の神社建築は、近代であっても、その時々の技術や部材などを使いつつ、伝統的な様式を守ろうとしている。
 - 文化財未指定である。
- 老杉神社本殿 前室付三間社流造である。
- 志那神社は一間社流造の名建築である。使用木材の質も高い。神聖な場なので、基壇を設けている。
- 春日神社本殿 装飾が少なく、木が太い伝統的な様式である。老朽化が激しく、覆屋により保護している。建物の傾斜を鉄筋で支えている。早期の保存対策が望まれる。
- 新宮神社本殿 UDCBK と立命館大学の間にある。一間社流造で、正面に唐破風をつける中世的变化の一形態である。
 - 流造のバリエーションのひとつである。
- 鞭崎神社 表門は膳所城の遺構を移築。本殿は下鴨神社摂社河合神社本殿遺構を移築したものであるが、全部か一部の部材のみか今後の研究課題である。文化財に未指定。
- 総社神社本殿 お寺の作り方である入母屋造を神社に反映している。装飾性が豊かであり、当時の先進的意匠で異質。滋賀県は伝統を守りつつ、個性をだしている。
- このように草津市内の神社はバラエティに富んでおり、貴重なものが多い。
- 配布した「くさつ歴史発見地図」には歴史的建築の場所や解説が載っているので、参考にしてほしい。
- わかっていることより、わかっていないことの方が多く、わずかなピースから欠けているピースを創造しながら、景観を考えていってほしい。

(5) ディスカッション

- 草津市内の神社は移築したものも多い。建造物の構造だけではなく、歴史の流れなどの時代背景も踏まえ、今そこにある理由を考えていく必要がある。
 - おっしゃる通りである。建築だけではなく、サンヤレ踊りなど活動や周りの風景と建築との関連も考えていく必要がある。
- 市内のお寺や神社の写真を撮ったり、観光体験を企画したりしているが、草津の知らないことも多い。UDCBK のセミナーに参加して、もっと考えていって草津の観光を面白くしていきたい。
- 伝統を守るとは当時のやりかたそのものではなく、その時々のテクノロジーの発達や経済、社会の変化を受けて変わりうるものだという事に感動した。

- 神社建築の予備知識をもって調査したので、より理解が深まった。
- 神社建築を図面に起こすために計測しなければならないが、どのように計測したのか？
 - 昔は巻尺だったが、今はレーザーで簡単に測定することができる。
- ルートマップについては守山駅から旧志那港に向かう志那街道沿いの神社等を結んでいるが、入っていない神社もある。徒歩では厳しいので、車や自転車と組み合わせ考えていかなければならないだろう。
- ワークショップで検討する場所は常盤地区か？
 - 常盤地区には限定していない。草津市内全域であるが、常盤地区は取り上げる価値がある場所である。

(6) まとめ

今回のセミナーにおいて草津市の常盤地区は建築学的に貴重な歴史的建築が多いことを改めて認識しました。さらに歴史的建築だけではなく、中世以来の惣村の伝統を受け継いだ「サンヤレ踊り」という活動も残っていることは地域の誇りでもあります。

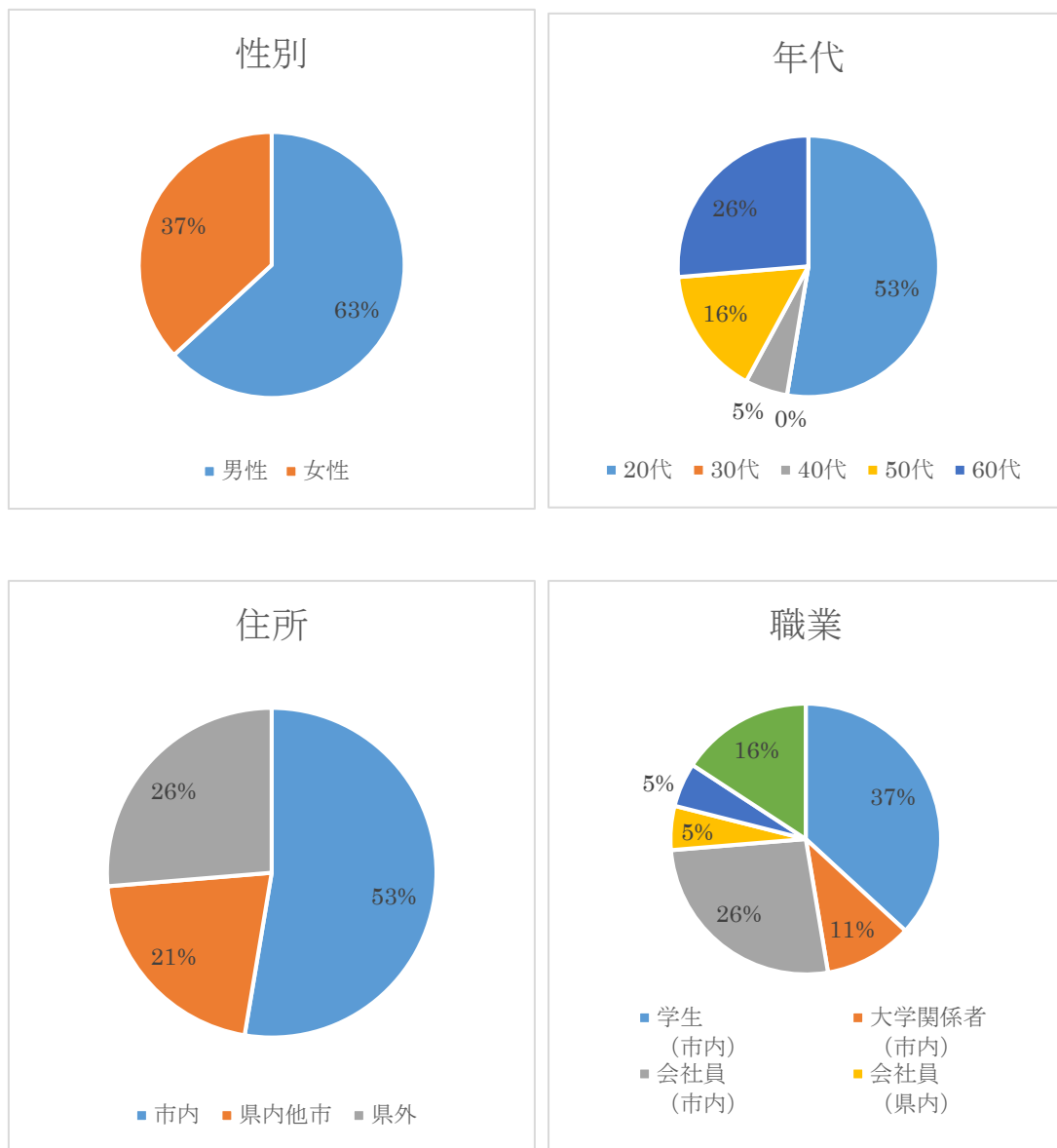
しかし、地域の景観や風景は、その時々々の自然環境や政治、経済、社会とのかかわりの中で作られ続けているのですが、歴史的建築とその時々々の地元の人たちの信仰や生活と歴史的建築がどのようにかかわっていたのか、わからないことも多いことがわかりました。また歴史的建築物は伝統を守りながらも、その時々々のテクノロジーや手に入る材料を使うなど建設当時の流行を取り入れていることも知りました。他の地域ではアニメなどの舞台になり聖地巡礼と話題になっているところもあります。これから考えていくストーリーは過去の活動の積み重ねを踏まえながらも、現在の活動も創り、アクセスや街路や広場など新たな景観や風景をつくりだしていくストーリーを考えていくことだと気付きました。未来からみたとき、今回御紹介いただいた歴史的建築が鎌倉時代や室町時代を代表する目印としてではなく、今後の取組みによっては将来、平成の時代の目印となる可能性を感じることができました。

第1回のワークショップでは「未来に伝えたい草津の目印」を参加者に記載していただきました。「文化財」や「神社仏閣」というワードは多くではいましたが、具体的な神社名や様式などに踏み込んだワード、また他のカテゴリーと関連する記述が少なかったのですが、今回のセミナーを経て、より具体的な記述になることが期待できます。

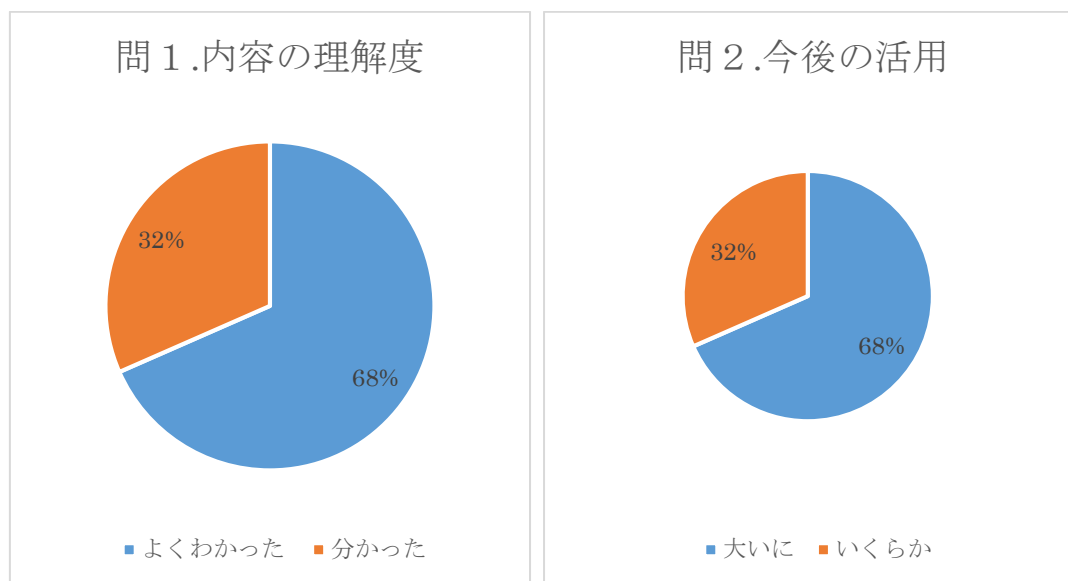
(7) アンケートまとめ

① 参加者属性

参加者 23 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 19 名、回答率は 83 %でした。



② 内容について



③ 内容に関する自由記述

- 草津市だけでこれ程歴史的建築物がある事が分かって驚きました。草津宿だけでなく、これらの保存も必要なことから保存の制度はどうなっているのか気になりました。
- 滋賀、特に草津市内にこれほどの歴史的価値のある神社があることに驚いた。建築の観点からみて特徴を知ると見に行きたくなった。大学が草津市というたまたまなつながらりだが、これをきっかけに興味関心が広がりそうで楽しみになった。
- 滋賀には神社建築がたくさんあるのは知っていたのですが、思ったよりも規模は小さかったけれど、古い頃につくられ、どういった特徴があるのか1つ1つそれぞれの良さを知れたのはおもしろかったです。
- 建築物の特徴と歴史からみる大切さ。草津のすごさ。
- 滋賀県は建築物から推測すると保守的であるということ。
- 草津市内の重文の多さや滋賀県全体の傾向として、古式を使っていることも興味深い。勿論まだ調べきれっていない関連事項と新たな発見があることに期待して素人ながら街歩きなどして個人的な知見も得たいと思いました。
- 地図を使っでの説明ですごくイメージがしやすかった。先生のお話も、草津市を俯瞰した話の順序だてで、はいりやすかったです。草津市の宝物探しができた感じ。神社以外にもう少し近代でおもしろい建造物が草津にはないのかと思います。それも知りたいです。
- 草津市には歴史的文化財が多く残っていることがわかった。特定の様式が滋賀県に多い理由が気になった。
- 三大神社など、かねてから行きたいと思っていた建築のお話もいただけたので今回学

んだことを探しに行くような気持ちで訪れてみたいと思う。下宿のためこの地域に住んでいるが、すごくおもしろい地域に自分はいるのだなとちょっと楽しくなりました。

- 神社建築を体系的に勉強できて良かった。ありがとうございました。
- 滋賀県の神社の特徴など知らなかった事が多くあり印象に残りました。今回の話を聞いた上で、訪れてみたいと感じました。
- 先生が興味を引くために分かりやすく、丁寧に説明いただいたのが良かった。まちづくりにつなげる流れの説明もあり良かった。
- 歴史がわかるとおもしろい、いろいろありがとうございました。

以上